

## 『将棋 Part2』

7月21日のオンライン例会での挨拶で、将棋の藤井聡太四冠(当時は棋聖、王位の二冠でしたが、その後叡王そして11/13に竜王のタイトルも獲得し現在は四冠)のお話をさせていただきました。



将棋に興味のない方でも藤井四冠の名前は聞きになったことがあると思いますが、まさに恐るべき強さの棋士です。まだ19歳にしてすでに将棋8大タイトルの内、この1年以内に3タイトルを獲得し、先日将棋タイトルの中でも筆頭格の竜王位も獲得しました。挑戦したタイトル保持者は豊島将之で、7月にお話したときには藤井四冠が唯一苦手としている棋士といわれていました。当時は対戦成績が藤井三冠の2勝8敗でしたが、その後巻き返し現在は13勝9敗と逆転しました。竜王戦も藤井四冠の4連勝のストレート勝ちで、史上最年少四冠達成を果たしました。誤解なきように申し加えますと、豊島前竜王は藤井四冠は別格としても、現在のトップ3の一人といえる超強豪棋士であります。

将棋は作戦を決める序盤、戦いの始まる中盤、そして勝負を決する終盤に分かれ、藤井四冠の強さはオールラウンドと称されますが、特に勝負を決する終盤の強さが特筆されています。読みの正確さが必要な終盤力を競う「詰将棋解答選手権」というプロ、アマ含めた詰め将棋自慢の人が集まる大会がありますが、藤井四冠はアマチュアであった小学生時代から詰め将棋自慢の数多くの超一流プロを抑えてなんと5連覇しています。これは野球に例えるなら、正確なコントロールで170kmの速球を楽々投げる中学生投手のような存在といえます。将棋界の大谷翔平といってもよいかもしれません。

将棋界では、数年前に名人がコンピューターに敗れるというショッキングな出来事がありましたが、以来積極的にAIを導入し研究するプロ棋士が増えています。藤井四冠もその1人ではありますが、彼のすごさは時にAIを上回るといわれる読みをすることです。タイトル戦などでもAIもプロの誰一人も予想しない派手で驚くような1手で勝利を手に入れたことが度々あります。

今後どこまで強くなるのか、来年1月からは王将戦七番勝負で渡辺明王将への挑戦が決まりました。

羽生善治九段が以前に達成された八冠全冠制覇(当時は七冠)がいつ達成できるのか興味が尽きません。